

名古屋市高齢者日常生活支援研修 研修プログラム

	研修科目	目的	内容	区分	時間数	
1 日目	1 研修の目的及び目標	研修の目的と目標を示し、それに沿って研修カリキュラムがどのように組み立てられているかを理解する。 研修の方向性を明確にし、到達ポイントを意識させる。	・研修目的・目標の明示 ・目的・目標とカリキュラムの関係性について ・研修の機会を、主体的、積極的に自分の学習の場として活用する意義について	講義	60分	
	2 の生活 基礎支 援型 知識 ①訪問 サー ビス の担 い手	(1) 共感的理解と基本的姿勢の形成	サービス利用者である高齢者の立場を共感的に理解し、サービス提供者としての基本的姿勢を形成する。	・ロールプレイ等の方法により、サービス提供場面の演習を行い、利用者の立場を体験的に理解するとともにサービス提供者としての基本的姿勢を考察する。	演習	90分
		(2) 生活支援型訪問サービスの基本的理解	利用者の自宅を訪問し知り得た情報、サービス提供の情報共有の取り扱いを理解する。(守秘義務) チームケアを理解し、サービス提供責任者との連携の仕方、重要性を理解する。 接遇を見直し訪問サービスに入る時の注意ポイントを理解する。	・情報の取り扱いについて (実際の事例を使い体感的に理解する。) ・チームケアのあり方及び、主任ヘルパー・サービス提供責任者の役割と業務について ・基本的な接遇について	講義 演習	30分 90分
		(3) 認知症高齢者の理解	認知症の理解、認知症高齢者に対する援助の方法を理解する。	・認知症高齢者の生活像について ・認知症の医学的理解と種類について ・中核症状及び周辺症状の理解と対応について	講義	90分
	3 介護現場見学オリエンテーション	介護現場見学オリエンテーション	・介護現場見学オリエンテーション	講義	30分	
2 日目	老人デイサービスセンター等における介護現場の見学	施設内オリエンテーション 在宅サービス提供現場の見学を通じて、その役割と機能を理解する。 ホームヘルプサービスと他のサービスとの連携のあり方など、在宅生活者への総合的支援のあり方について学習する。	・デイサービスセンター・サロン等での活動紹介、支援の特徴、オリエンテーション ・デイサービスセンター・サロン等見学	実習	180分	

名古屋市高齢者日常生活支援研修 研修プログラム

	研修科目	目的	内容	区分	時間数
3 日 目	1 生活支援型訪問サービスの担い手の基礎知識② (1)医学の基礎知識	高齢者に多い病気の特徴を理解する。 感染症について理解する。	・高齢者に多い病気の理解について 【例】心不全、高血圧、脳梗塞、糖尿病 等 ・感染症の理解と予防 【例】MRSA、インフルエンザ、B型・C型肝炎、梅毒、AIDS、ノロウイルス感染症 等	講義	60分
	2 生活支援型訪問サービスの基礎知識	高齢者支援を行うときの基礎を学習する。	・生活支援の目的・機能と基本原則	講義	60分
	(2) 生活支援型訪問サービスの事例紹介	生活支援サービスの事例を通じて実際の生活支援のイメージを持ち、生活支援サービスの方法を学習する。	社協・生協・NPO等の実際の生活支援現場を解説しながらスライドで流し、実際の現場のイメージを形成する。	講義	60分
	(3) 生活支援型訪問サービスの提供方法	高齢者への生活支援の目的と機能、方法を理解する。 高齢者への生活支援に必要な栄養・調理・被服・住居管理等の知識を学習する。	・生活支援の方法 ・生活支援における自立支援 ・高齢者の栄養と食生活、調理技術等 ・買い物代行、食品の保存・管理 ・ごみの始末、調理器具・食品の衛生管理 ・高齢者の被服 ・快適な室内環境と安全管理、清掃	講義 演習	120分
	(1) 介護保険法、介護予防・日常生活支援総合事業の理解	介護保険制度の改正に伴い、新しく新設された介護予防・日常生活支援総合事業について理解する。	・介護保険制度の改正のポイント ・介護予防・日常生活支援総合事業について	講義	60分
(2) 生活支援型訪問サービスの担い手の社会的役割と位置づけ	生活支援サービス担い手の役割と業務を理解する。	・生活支援サービス担い手の社会的役割と位置づけについて			
4 生活支援型訪問サービスの担い手としての働き方	生活支援型訪問サービスの雇用契約のもとで働くことについて理解する。	・生活支援型訪問サービスでの働き方を再確認し、社会の一員として総合事業での担い手としての役割を提案する。	講義	30分	

総時間数 960分

※研修日数は基本的に3日間とするが、上記と同内容であれば、日数の変更は可能とする。